

2016

ANNUAL REPORT

アニュアルレポート
2016年3月期
事業編

innovative spirit で革新的な製品を世界へ

2016年3月期（2015年4月1日から2016年3月31日）のアニヴァーサリーレポートをお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。当グループは主力事業である電子部品実装ロボットと創業からの工作機械の2つの事業を中心として展開しています。最近では、両事業を支えるロボット技術を応用し、福祉業界や物流業界等での新たなニーズを的確に捉え、新製品の開発にも取り組んでいます。中期経営目標として、電子部品実装ロボット事業では、『ネクストステップ30』を掲げ、マーケットシェア向上のために次期戦略機の市場投入と市場開拓・サービスの強化に取り組めます。工作機械事業では、『Challenge200』を掲げ、売上拡大のため、販売・サービス力の強化をしていきます。新規事業においては、社内で実用化してきた技術を深耕し、事業確立のため新技術の創出に力を入れていきます。

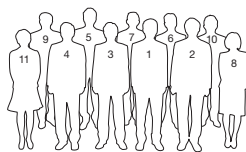
コーポレートビジョンとして、『世界中の人々に夢のある未来を提供するために新しい価値の創造に挑戦し、世界一製品を持ち続け名実ともに1,000億円企業になる』ことを目指します。

役員



1	代表取締役社長	曾我 信之
2	取締役 役	須原 信介
3	取締役 役	児玉 誠吾
4	取締役 役	河合 孝昌
5	取締役 役	巽 光司
6	取締役 役	江崎 一
7	取締役 役	松井 信行*
8	取締役 役	川合 伸子*
9	常勤監査役	坂上 晋作
10	監査役	松田 茂樹*
11	監査役	山下 佳代子*

(注) ※印の取締役及び監査役は社外役員であります。



CONTENTS

トップメッセージ	02
事業概況	03
—電子部品実装ロボット事業—	03
—工作機械事業—	04
—新規事業—	05
知的財産戦略	05
成長戦略／資本戦略	06
コーポレート・ガバナンス	07
連結財務ハイライト	08
グローバルネットワーク	09
CSRの取り組み／会社情報	10

編集方針

本報告書は、当グループの経営戦略及び財務情報について、ステークホルダー（株主様、お客様、お取引先、従業員、地域社会等当社と多様な利害関係のある方々）の皆様に分かりやすくご報告することを目的とします。

対象期間

2016年3月期（2015年4月1日～2016年3月31日）

スピード経営の推進により 企業価値の持続的向上に 取り組んでまいります



代表取締役社長

曾我 信之

2016年3月期は、国内景気は底堅く推移したものの、外需環境の不透明感から設備投資は伸び悩みました。世界経済は欧州では緩やかな景気回復が持続し、北米では製造業に持ち直しの動きが見られましたが、中国においては景気の減速基調が続きました。そのような経済状況の中、当社の業績はほぼ計画通り達成することができました。2017年3月期は、TPP等関税撤廃や貿易自由化の動きに期待ができます。一方で、英国のEU離脱による世界経済への影響については全く予断を許さない状況下であり、牽引役であるアメリカ、ゆるやかな成長と見られていた欧州経済にも暗い影を落としております。それ以外の地域についても同様に、先行き不透明な状況ではありますが、とりわけアジアは中長期的に技術の進歩が著しい地域です。中国とは、わが国と地政学的リスクを抱えてはいるものの、売上は当グループにおいて大きな割合を占めており、重要な隣国としてよりいっそう緊密な連携をとってこうと考えております。東南アジア諸国、加えてインドは中期的に、世界を牽引する経済成長が期待できる市場で中南米では、積極的な経済産業政策を進めているメキシコに注目しております。

2017年3月期の経営基本方針として、当社の新たな施策は

組織力の強化です。世界経済の動向を見据えていく上で、企業体として一層の組織力が求められてくると考えています。組織力の強化として、各事業部を縦軸とし、各事業部の枠に捉われない戦略を横軸として成長戦略を実践していきます。成長戦略の基本は、ロボット技術で未来を切り拓いていくことです。電子部品実装ロボット、ロボット搬送システムを駆使した工作機械、さらにはロボット技術で新しい価値を創造していき、新たな市場に進出していきます。時代を捉え変革にチャレンジし独創性の高い製品をタイムリーに市場に提供していきたいと考えています。モノづくりを極めることでグローバル競争に打ち勝ち、ロボットメーカーとして躍進を果たしていきます。

また、介護制度や育児制度の拡充やワークスタイルの見直し等を通して生き生きと働ける活力のある職場をつくっていききたいと考えています。

コーポレートビジョンで掲げている『名実ともに1,000億円企業になる』とは、単に売上高が1,000億円に達するだけでなく、当社が関係を持つ全てのステークホルダー（株主様、お客様、お取引先、従業員、地域社会等）と利益を共有し、共に夢のある未来をつくっていくことを指しています。

■ 中期経営目標（2015.04～2018.03）

新しい価値を創造し、名実ともに1,000億円企業を実現

電子部品実装ロボット

『ネクストステップ30』

- ・次期戦略機の市場投入
- ・市場開拓とサービスの強化

工作機械

『Challenge200』

- ・DLFnを旗艦機種に導く
- ・販売・サービス力の強化

新規開発

『新事業創出』

- ・ロボットイノベーションの創出
- ・新技術の創出とコア技術の深耕

世界No.1技術を追求し、 エレクトロニクスの躍進へ貢献

現在、当事業では、新製品開発のスピードアップを重要課題と捉えています。その中でも、インダストリー4.0やIoTへの対応を進めるにあたり、統合生産システム“Nexim”の充実を図っていき、スマートデバイスや車載関連等の成長市場でのプレゼンスを高めていくことに注力しています。そして、電子部品実装ロボットの前後工程の自動化・省人化を推進し、お客様のニーズに応えられるように取り組んでいきます。また、フレキシブルな生産体制を強化し、業界最高品質の製品を短納期で提供していけるように努めます。今後も、業界のリーディングカンパニーとしての優位性を生かして収益基盤のさらなる拡大を図っていきます。



専務執行役員
ハイテック事業本部本部長
須原 信介

●電子部品実装ロボット

NXT

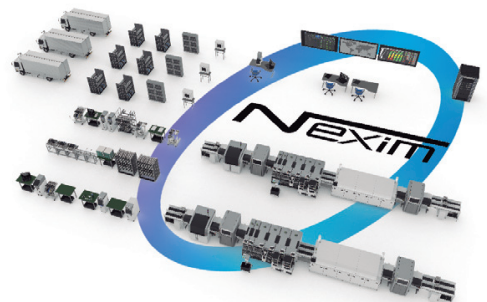


●汎用組立機

Smart FAB



●統合生産システム



事業戦略

『お客様第一主義に基づく需要の創出』

営業

- ・成長市場(車載、スマートデバイス関連)ユーザーの獲得
- ・SMT前後工程市場の攻略
- ・顧客満足度の高い提案型営業力の強化とサービス力の向上

開発

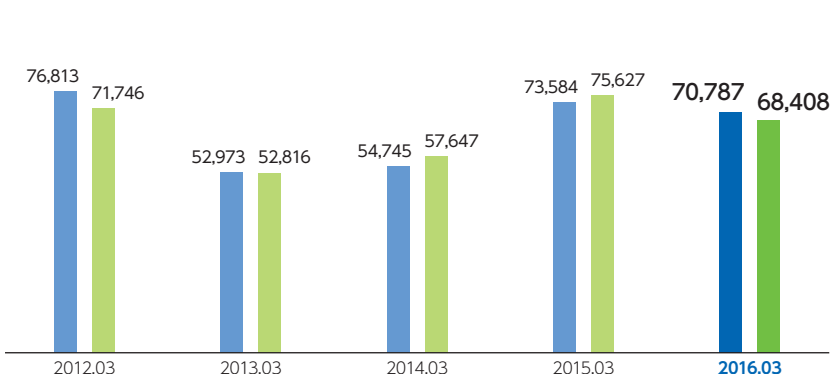
- ・スピード感ある新製品開発、ソフトウェアの強化
- ・高付加価値実装、自動化・省人化対応
- ・インダストリー4.0、IoTへの対応推進

生産

- ・徹底したフレキシブルな生産体制構築
- ・サプライチェーン改革によるQCD向上

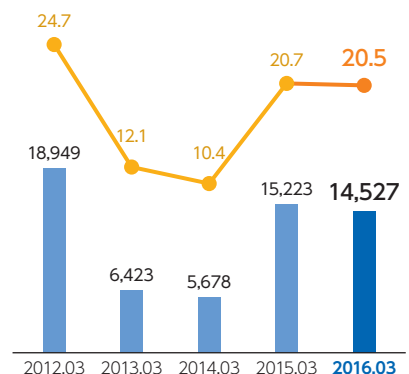
売上高・受注高 (百万円)

■売上高 ■受注高



営業利益・営業利益率

■営業利益 (百万円) ●営業利益率 (%)



世界中のモノづくりを 高度な技術力でサポート

現在、当事業では、既存製品の競争力の強化とモジュール型生産設備“DLFnシリーズ”の開発を進め、製品群の充実を図っています。今後、主力工場である藤岡工場の増築を行い、短納期対応を強化するとともに生産性を向上していきます。“DLFnシリーズ”は、ロボット搬送システムのさらなる自動化を進め、省スペースを生かしたミニチュアファクトリーをお客様のニーズに合わせて実現していき、様々な生産現場に貢献していけるように努めていきます。日本国内や北米においては、販売網の構築が進んでおりますが、今後は、中国をはじめとするアジア、欧州での拡販のため、販売店様や商社様との連携強化にも注力していきます。



常務執行役員
工作機械事業本部本部長
藤岡工場工場長
河合 孝昌

●横型NC旋盤

TN SERIES



●正面2スピンドル旋盤

CS SERIES



●モジュール型生産設備

DLFn



事業戦略

『構造改革による利益体質の構築』

営業

- ・国内外の販売網の強化
- ・グローバルサービスサポート体制の拡充
- ・DLFnの拡販

開発

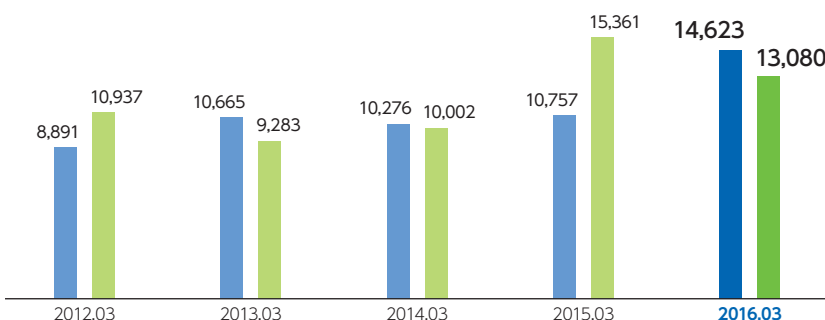
- ・DLFn新モジュール開発
- ・徹底したVA、コストダウン設計
- ・IoTへの対応推進

生産

- ・品質向上、短納期対応
- ・リードタイム $\frac{1}{2}$ へ短縮

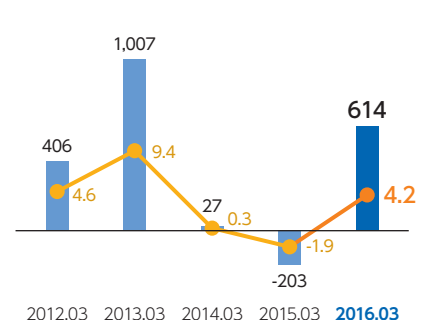
売上高・受注高 (百万円)

■売上高 ■受注高



営業利益・営業利益率

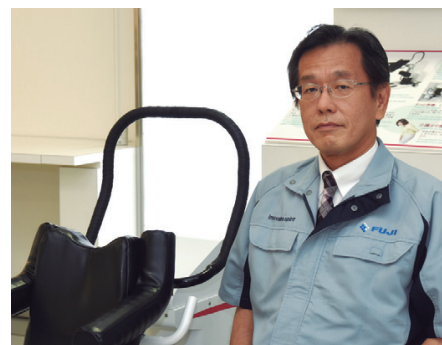
■営業利益 (百万円) ●営業利益率 (%)



培ってきたロボット技術を礎に、 新しい分野へ挑戦

ロボットイノベーションの中核となる新事業創出に取り組んでいます。来期は小型多関節ロボットをリリースします。手間のかかるロボットのティーチング作業をなくし、生産ラインへの大量導入を可能とし、自動化、省人化に貢献できると考えています。また、体の不自由な人と補助する人の負担を減らし、より人間的なケアを実現する移乗サポートロボットをリリースいたしました。

一見、共通性のないロボットに見えますが、これらは当社が開発し、培ってきたロボット技術をベースにした新製品です。今後も、社内で実用化してきた要素技術、コア技術を深耕して新技術を創出していく姿勢です。さらに、オープンイノベーション等の手法も活用しスピード感を持った開発に努めていきます。



常務執行役員
開発センター長
児玉 誠吾

●小型多関節ロボット 「SmartWing」

開発している小型多関節ロボットは、スリムな構造が特長のひとつで、これまでにない密集配置を可能としています。複数のロボットを連係させて様々な工程を自動化できます。また、自動化現場での垂直立上とマスカスタマイゼーションを実現する革新的なシステムの確立を目指しています。



●移乗サポートロボット 「Hug」

ベッドから車椅子、車椅子からお手洗いといった座位間の移乗動作や、脱衣所での立位保持を補助します。体の不自由な人の脚力を生かしながら、最小限の介助で移乗することをサポートしていきます。



●パブリックストックシステム「Quist」

ネットスーパーや通販で注文した生鮮食品、日用品を専用ボックスで受け取る「新しい買い物システム」をてがけています。日常の買い物負担を軽減し、忙しい毎日を送る方々の生活を支援するものとなるよう製品開発に取り組んでいます。



(使用イメージ)

Quist

知的財産戦略

守りと攻めの戦略を実践し、 グローバル展開を強化

当社は、1959年に創業して以来、数々の業界初の技術を含む技術開発において、常にイノベーションを起こし続けていることで製品力、競争力の源泉としてきました。当社技術陣トップ自らが業界屈指のイノベーターであることは今までの特許出願数、登録数が証となっています。若い技術者においても高い目標に向かい日々、新たな技術の開発に力を入れています。

新たに開発された当社技術を守るべく、当社は2013年3月期から毎年約300件の特許出願を行い、その約7割は、国際（PCT）出願です。また、3～5割の国際出願を中国、欧州、米国等に移行して権利化も行っています。当社独自の差別化技術に関する特許は、どこにもライセンスしない方針を貫いており、当社知的財産力を活用して、模倣品や無効な特許の排除に努めています。



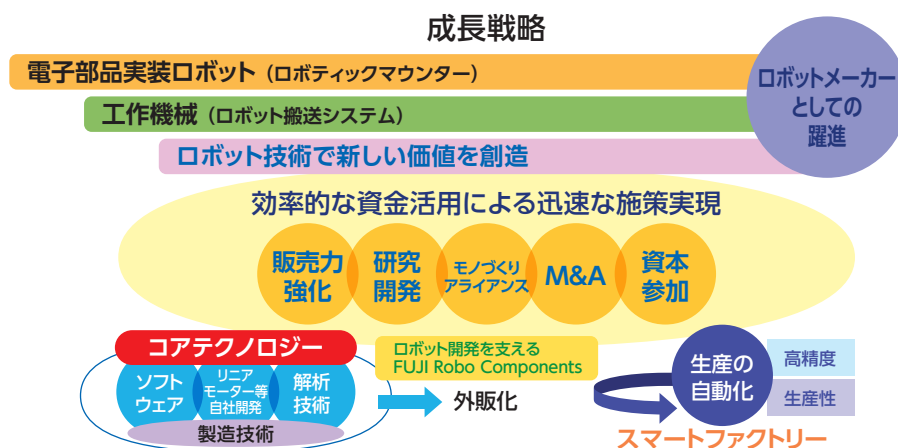
須原専務、児玉常務が発明した「小型モジュール式電子部品実装装置の発明」は、平成28年度全国発明表彰において文部科学大臣賞を受賞した。

企業価値向上に向け、ロボット戦略を実践

当社はお客様の信頼に応える高い技術力で競争力のある製品を市場に提供し、非常にオーガニックな成長を遂げてきました。ロボット企業ということを中心として、既存事業の成長と新事業の創造をてがけ、ロボット技術を多方面で応用していくことで市場開拓に努めていきます。開発、販売、生産等企業力の強化に加え、事業提携等のアライアンスの強化、開発補完を念頭においたM&A等を実施することで成長スピードの加速化を目指し、企業価値向上にむけて戦略を実践していきます。



執行役員
市場戦略部部长
江崎 一



安定配当に加え、機動的な資本効率向上策を実行

当社は、お客様に最高の技術を提供することで製品の競争力を維持するために高水準の研究開発・設備投資を継続するとともに、将来の成長に向けた新規分野への戦略的投資も積極的に進めていくことで、企業価値の増大を目指しております。

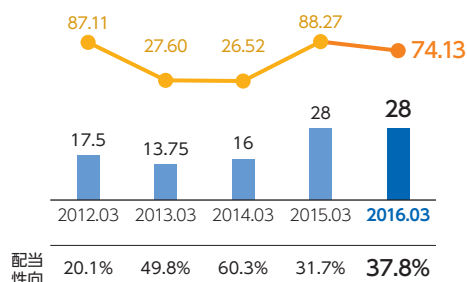
また、株主価値向上の観点から、資本効率の向上を図りながら、株主の皆様への継続的な利益還元を維持することも経営の最重要政策のひとつとして位置づけております。

当社の主力事業は、世界的な景気変動の影響を受けやすく、当社業績も大きく変動します。こうした環境の中においても、業績の変動に左右されない安定的な配当を出来る限り維持したいと考えています。同時に、機動的に自己株式を取得することも資本効率向上の有効な施策であるとの考えのもと、2016年3月にはじめて、総額100億円の自己株式取得を決議し、現在も取得を継続中です。



執行役員
経理部部长
巽 光司

1株当たり当期純利益・1株当たり年間配当金
● 1株当たり当期純利益(円) ■ 1株当たり年間配当金(円)



(注) 2013年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。上記では当該株式分割が2012年3月期の期首に行われたと仮定して算出してあります。

■ 基本的な考え方

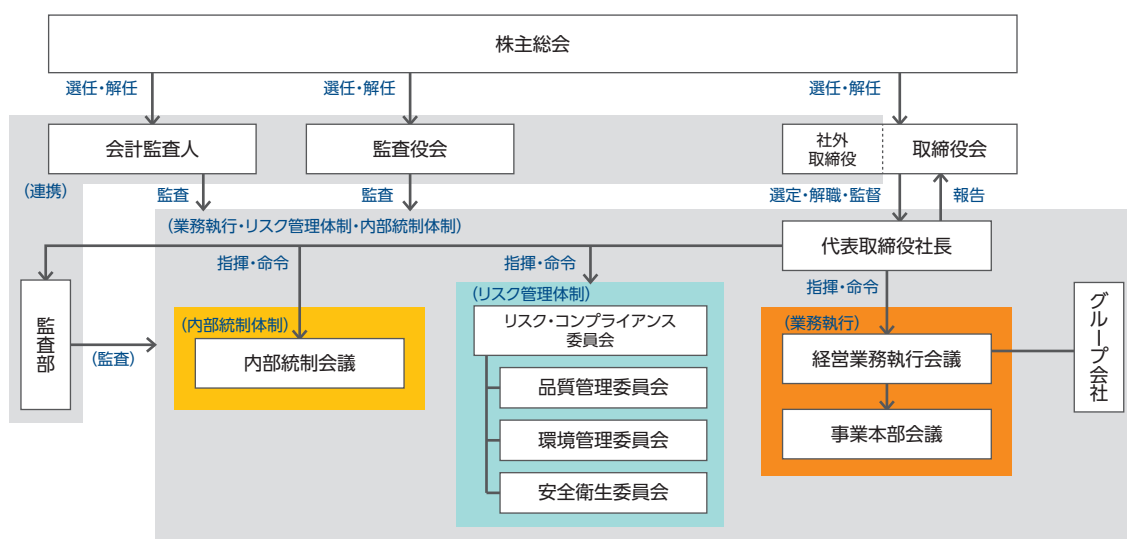
当グループは、株主様、お客様、お取引先及び従業員にとってより高い企業価値の創造に努めることを最重要課題と認識し、経営環境の変化に迅速かつ確に対応できる組織体制と公正かつ透明性のある経営システムの構築・充実ならびにリスク・コンプライアンス体制の強化に努めています。

■ コーポレート・ガバナンス体制

2016年6月29日現在

取締役の人数	8名
（うち社外取締役の人数）	2名
監査役の人数	3名
（うち社外監査役の人数）	2名
独立役員の人数	4名
取締役会の年間開催数	14回
取締役の任期	1年
執行役員制度の採用	有
執行役員の人数	11名

■ コーポレート・ガバナンス体制図



■ 社外取締役



社外取締役
松井信行

イノベーションという言葉について、単なる技術革新と捉えるのは大いなる誤解であり、本来は創作されたモノによって社会の仕組みや生活の基盤から全体を変革していくことを指します。学術研究と産学連携に携わっていた経験を生かし、富士機械製造がまさにイノベーションの担い手として、今後もさらなる技術的な進歩に繋がるように、学術的な視点から発言を重ね、社外取締役として責務を果たしていきたいと思っています。



社外取締役
川合伸子

企業経営は容易ではなく、積極的な戦略の中で、リスクを正しく見極めなければなりません。技術革新を重ね、良質な製品を世に出してきた富士機械製造が、健全な成長を続けられるよう、法律家としての知識、経験、感覚を生かして発言し、社外取締役の役目を果たしたいと思っています。

■ 監査役



常勤監査役
坂上晋作



社外監査役
松田茂樹



社外監査役
山下佳代子

監査役は、取締役会、経営業務執行会議その他の重要な会議に出席するほか、代表取締役との定期会合、主要な事業所等において業務内容や財産状況の調査により、取締役の職務執行の監査を実施しています。また、会計監査人、内部監査部門との連携・協調を保ち、積極的に意見や情報の交換を行い、監査業務の品質の向上に努めています。

連結財務ハイライト

決算のポイント

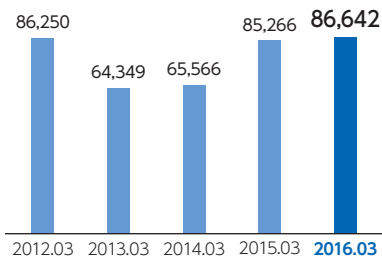
売上高

前期に比べ、全体で13億円の増収となりました。

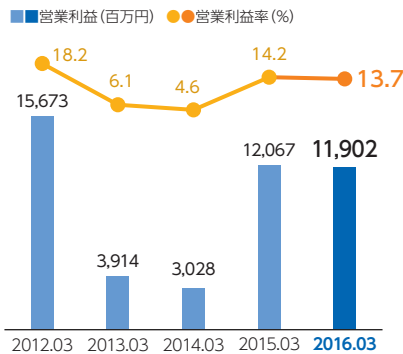
営業利益

販売価格の下落、変動費の増加により、前期に比べ1億円の減益となりました。

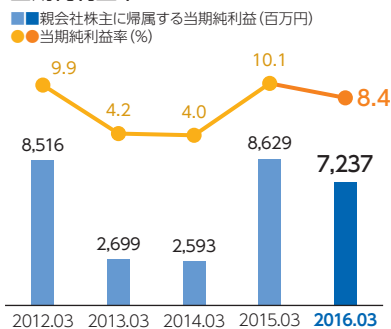
売上高 (百万円)



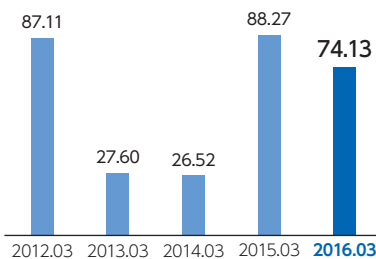
営業利益・営業利益率



親会社株主に帰属する当期純利益 当期純利益率

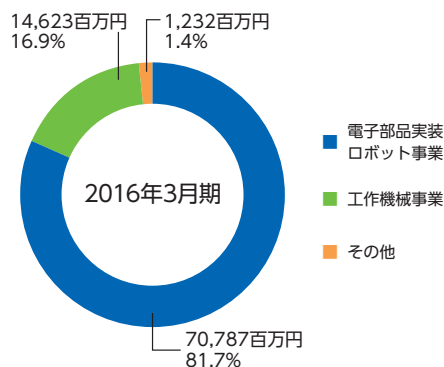


1株当たり当期純利益 (円)

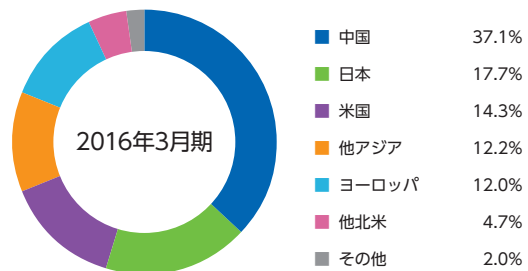


(注) 2013年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。左記では当該株式分割が2012年3月期の期首に行われたと仮定して算出してあります。

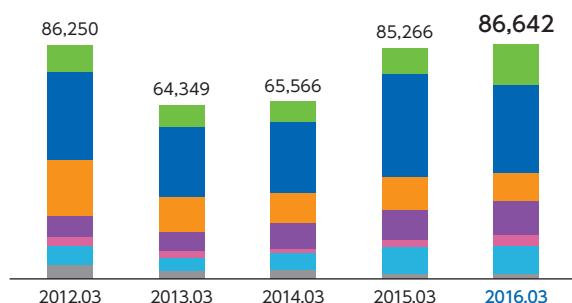
セグメント別売上高構成比



地域別連結売上高構成比



地域別連結売上高推移 (百万円)



	2012.03	2013.03	2014.03	2015.03	2016.03
日本	9,834	8,467	7,770	9,903	15,337
中国	32,639	25,711	26,010	37,856	32,166
他アジア	20,642	12,904	11,271	12,083	10,559
米国	7,667	7,060	9,368	11,100	12,383
他北米	3,553	2,451	1,731	2,695	4,042
ヨーロッパ	6,898	5,134	6,428	9,954	10,438
その他	5,017	2,622	2,988	1,675	1,717

世界中のお客様に安心して製品をお使いいただけるように、
ワールドワイドで販売・サービスサポート拠点を展開しております

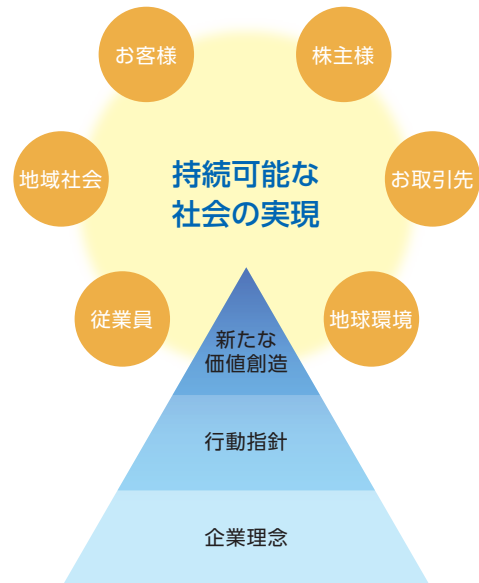


会社名	所在地	設立	主要な事業内容	従業員数
① フジ アメリカ コーポレイション	米国伊利ノイ州 バーノンヒル	1970年 4月	当社製品(電子部品実装ロボット)の販売	53名
② フジ マシン アメリカ コーポレイション	米国伊利ノイ州 バーノンヒル	1994年11月	当社製品(工作機械)の販売	36名
③ フジ マシン マニュファクチュアリング (ヨーロッパ)ゲーエムペーハー	独国 マインツカステル	1991年11月	当社製品(電子部品実装ロボット)の販売	53名
④ フジ マシン アジア プライベートリミテッド	シンガポール	2001年 3月	当社製品(電子部品実装ロボット)の販売	109名
⑤ フジ ド ブラジル マキナス インダストリアイス リミターダ	ブラジル国サンパウロ州 サンパウロ	1995年11月	当社製品(電子部品実装ロボット)の販売	42名
⑥ 富社(上海)商貿有限公司	中国上海	2007年11月	当社製品(電子部品実装ロボット)の メンテナンス及びアフターサービス	23名
⑦ 昆山之富士機械製造有限公司	中国昆山	2012年 1月	当社製品の製造、販売	68名
⑧ 株式会社アドテック富士	愛知県岡崎市	1977年 4月	当社製品の機械組立・改造修理	128名
⑨ 株式会社エデックリンセイシステム	愛知県豊橋市	1992年11月	自動制御装置の製造、電子基板の設計製造、 ソフトウェア開発	101名

まごころ込めて一生懸命モノづくりを推進し、 豊かな社会づくりに貢献し続けます

当グループは“モノづくり企業”として『需要家の信頼に応え、たゆまぬ研究開発に努め、最高の技術を提供する』を社訓とし、企業理念をつくりあげてまいりました。

株主様、お客様、お取引先、従業員、地域社会の皆様とのしっかりとした絆を基盤とし、日々の企業活動に取り組んでいます。世界有数のロボットメーカーとして、産業用ロボットである電子部品実装ロボット、ロボット搬送システムを搭載した工作機械等、常に新しい価値と市場を創造してまいります。これら企業活動により、社会とともに持続的な発展を目指し、企業の社会的責任を全うしてまいります。



会社情報

(2016年3月31日現在)

会社概要

商号	富士機械製造株式会社 FUJI MACHINE MFG. CO., LTD.	資本金	5,879百万円
本店所在地	愛知県知立市山町茶碓山19番地	支店	東京、大阪
設立	1959年4月	主要な事業内容	電子部品実装ロボットならびに工作機械の製造、販売
		従業員数	2,108名(連結) 1,604名(単体)

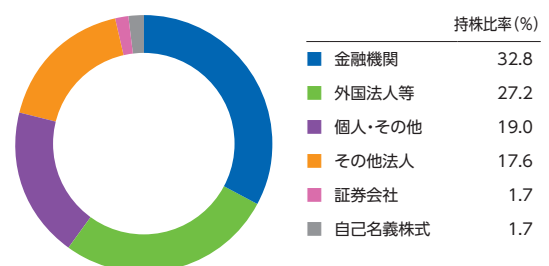
株式の状況

発行可能株式総数	390,000,000株
発行済株式の総数	97,823,748株
株主数	7,413名

●大株主（上位10名）

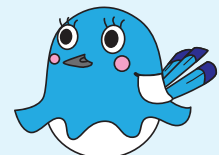
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
大同生命保険株式会社	6,684	6.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,341	4.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,936	4.0
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE THE KILTEARN GLOBAL EQUITY FUND	3,932	4.0
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,895	3.0
富士取引先持株会	2,795	2.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,468	2.5
有限会社サカガミ	2,400	2.4
株式会社名古屋銀行	1,554	1.6
J. P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S. A.	1,490	1.5

●所有者別分布状況



マスコットキャラクターのご紹介

皆様からより愛される会社を目指したマスコットキャラクター「FUJILALA (フジララ)」です。よろしくお願いたします。



(注) 1. 当社所有の自己株式(1,698,068株)については、上記上位10名の株主から除外しております。
2. 持株数は千株未満を切り捨て、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

